

角田小学校と横倉小学校の統合について

(1) 横倉小学校が過小規模校（複式学級のある学校）になるタイミング

角田市におけるこれまでの小学校の統廃合のタイミングについては、少なくとも一方の小学校において複式学級が発生しているタイミングで統合を実施している。

国の法令等により、小学2年生以上の学年については、2つの学年が16人以内になると複式学級となると示されているが、横倉小学校では、令和12年度の2・3年生（令和6年4月1日現在の1～2歳児）合わせて15人となることから、令和12年度に複式学級が発生することが予想される。

しかしながら、転入や転居による社会増により、それらの学年が2人増となれば、複式学級になるタイミングは翌年度以降になる可能性があり、複式学級になるタイミングが定まっていない。

(2) 基本構想の見直し・条例改正のタイミング

前回の基本構想においては、統合校における校舎等の改修、統合準備委員会開催、統合に向けての準備等に時間を要するため、児童・生徒数の推移を見定めながら、向こう3年以内の実行計画を市立学校条例の改正という形で議会の承認を得て定めてきた。

横倉小学校が複式学級になるタイミングは不透明であり、今回の検討委員会において、角田小学校と横倉小学校を統合する時期を決することは困難であることから、しかるべき時期に再検討すべきである。

(3) 学校長寿命化計画の整合性

角田小学校と横倉小学校の統合のタイミングの結論が出た時点で、角田市学校施設個別計画（長寿命化計画）に反映させ、校舎の長寿命化を計画的に実行していく。

(4) 通学区域の見直し

通学区域の見直し(横倉小学校の通学区域の拡大)によるメリット・デメリット

【メリット】

- ・横倉小学校が今の形でしばらくの間、存続することができる。
- ・一部の地域の児童の通学距離が短くなる。

【デメリット】

- ・角田小学校は適正規模校ではあるが、第1学年が2クラスであり、区域の見直しにより、小規模校になる可能性が高まる。
- ・角田小学校区へ通う児童に影響がある。
- ・角田小学校区の保護者・児童・地域住民の合意形成が困難な可能性がある。
- ・通学区域の見直しの範囲によっては、同じ行政区から違う小学校に通う児童が出現する可能性がある。